

神戸F C ボーイズ一部、二部を制覇

三部は箕谷女子Aが有馬を破る

＝ 昭和54年度神戸市少年サッカーリーグ閉幕 ＝

5月5日に幕をあげた54年度神戸市少年リーグは1部Aリーグ(小6・河本杯)が神戸F C・Aの2年ぶり2度目、同Bリーグでは神戸少年スクールが初めて、2部(小4・玉井杯)が神戸F C・Cの3年連続3度目、3部(女子玉井杯)は箕谷の初優勝で幕を閉じました。

参加90チームによる444試合、最大の難点はグラウンド確保でありました。雨のため例年になく試合の消化が遅れました。12月30日に1部決勝を終えましたが、数試合未消化に終わる残念でした。長期にわたって審判、少年達の引率、会場設営に奉仕された指導者の方々には、たいへんお世話になりました。今後明日の神戸、兵庫のサッカーを支える少年達の育成に協力をお願いします。

以下、少年リーグの結果と講評を述べてみました。

▼1部Aリーグ・上位グループ順位決定戦

優勝戦 神戸F C・A 3-1 東灘A

3位決定戦 箕谷A 4-1 丸山A

5位決定戦 蓮池A 4-1 高倉台A

9位決定戦 成徳A 2-1 八多

11位決定戦 ひよどり台A 2-1 東灘B

決勝戦は神戸F C・Aと東灘Aの対決となった。伝統ある東灘Aは5年連続優勝のあと2年連続して準優勝だけにやる気満々であった。一方神戸F C・Aは2年ぶり2度目の進出が予選リーグで一度あきらめていた決勝進出でリラックスしていた。決勝は12月30日、神戸中央球技場で天皇杯準決勝のあとキックオフ。リラックスしたKFCが前半立ち上りに先取点を上げ、東灘が追いかける展開となった。KFCは上林、大橋の活躍で3-0とリード、一方東灘も内山、本多を軸に激しく反撃したが後半15分に1点を返したにとどまった。東灘としては前半の終り頃、数度の決定的チャンスをものにできなかったのがやまれる。

3位には箕谷Aが4-1と丸山Aを大差で下した。以上4チームに蓮池Aと高倉台Aを加えた上位6チームの実力は紙一重で、全体的に実力差がつまり、予選リーグから好試合の続いた上位リーグだった。

▼1部Aリーグ・下位グループ順位決定戦

優勝戦 多井畑A 3-2 渦が森

3位決定戦 桜の宮A 3-2 板宿A

5位決定戦 ちとせA 3-1 成徳B

7位決定戦 御影 3-0 神陵台A

9位決定戦 塩屋 5-0 北五葉A

後期になって調子をあげている多井畑、渦が森の1位同士の対戦はみものだった。ともに上位リーグの実力はあるが、多井畑が渦が森守備陣の乱れをうまくつき逆転勝ちした。

今季初登録の八多は上位リーグ10位に、垂水SS塩屋は健闘及ばず下位リーグ9位にと

どまった。また昨年優勝の御影の下位リーグ7位はやや淋しかった。来年の奮起を期待したい。注目のAリーグ5年生チームはKFC・Bの上位グループ2組4位が光ったが、東灘Bは上位グループ1組6位、成徳Bは下位リーグ6位にとどまった。6年生の間でもまれた成果を来年に発揮してほしい。

▼1部Bリーグ順位決定戦

優勝戦 神戸少年スクール

3-2 箕谷B

3位決定戦 蓮池B 4-

1 北五葉B

5位決定戦 ひよどり台

C 2-1 多井畑B

11位決定戦 高倉台B 1-1 丸山B

13位決定戦 鶴越B 3-0 神陵台B

15位決定戦 和田岬A 2-0 板宿B

17位決定戦 北五葉 3-1 ひよどり台B

新しい試みのBリーグ戦、予選を通して6

試合も棄権があったのは残念だったが、こち

らも実力の似た同士で好試合の連続だった。

神戸少年サッカースクール(KSS)が優勝

したが2位の箕谷B、3位蓮池B、4位北五

葉Bは実力紙一重とも思えるが、練習量、選

手同士接触の少ないKSSの優勝は賞賛に値

する。また、2組で5位となったYMC Aの

躍進は注目を集めたし、蓮池B、多井畑B、

高倉台C、ひよどり台Cは来年の活躍が楽し

みだ。名門北須磨の復活も期待したい。

▼2部 1・2位グループ

優勝戦 神戸F C・C 1-0 箕谷C

7位決定戦 神戸F C・D 1-1 桜の宮C

▼2部 3・4位グループ

優勝戦 東灘C 6-0 多井畑D

▼2部 5位グループ

1位神戸F C・E、2位鶴越C、3位鶴越F

4位神陵台C

▼2部 6位グループ

1位鶴越E、2位和田岬C

2部の決勝戦は兵庫ライオンズ杯に続いて

の顔合せだ。雪辱に燃えた箕谷Cは前半から

多くのチャンスをつかんだがシュートが悪く

得点できない。せっかく得た前半のPKまで

ははずすし、後半立ち直ったKFCに1点

奪われ、またしても準優勝にとどまった。

他の順位決定戦は消化が遅れている。注目

のチームは、3年生ながら3、4位グループ

の1位になった多井畑Dでじょうずな選手が

そろっている。

▼3部 1・2位グループ

優勝戦 箕谷A 1-0 有馬

3位決定戦 桜の宮 0-0 八多



1部Aリーグ優勝の神戸F C ボーイズA

5位決定戦 太山寺 2-0 多井畑B

7位決定戦 北五葉A 6-1 和田岬

▼3部 3・4位グループ

優勝戦 高倉台A 2-0 ひよどり台A

3位決定戦 多井畑A 2-0 箕谷B

5位決定戦 丸山 2-1 神陵台A

7位決定戦 高倉台B 1-0 板宿

▼3部 5位グループ

1位高倉台C、2位北五葉B、3位蓮池、4

位名倉

▼3部 6位グループ

1位渦が森、2位ひよどり台B、3位多井畑

C、4位神陵台B

予選リーグから圧倒的強さで勝ち進んで

いた本命有馬にストップをかけたのは箕谷Aだ

った。とはいってもその実力では有馬が上で試

合内容も押しまくっていたがどうしてもゴール

が割れず有馬にとっては不運しか言いよう

のない敗戦だった。一方箕谷は予選リーグ

から接戦を勝ち抜いてきただけに守備、チ

ームワークには自信があった。初優勝おめで

とう。3位は桜の宮、八多が分けたが昨年度の

優勝に続いて八多の健闘は立派だった。

また5位の太山寺、8位の和田岬は熱心な

指導者の努力で成果が上りつつある。ひよ

どり台Aは予選リーグで箕谷Aを破りながら3

4位グループ2位は残念だった。

(黒田和生)

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒657 神戸市葺合区八幡通 2-5 磯上公園
神戸市サッカー協会 ☎ 078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



Pepsi-Cola and Pepsi are registered trademarks of PepsiCo, Inc. Another Quality Product of PepsiCo, Inc.

関区スポーツ

東灘区住吉宮町4丁目6-13 ☎078(821)8449
国鉄住吉駅南側西へ20m

灘スポーツ

灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671
市バス水道筋6丁目上る100m東側

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870
バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎078(391)0895
プレザージュ・トーアロード店 ☎078(391)0896
神戸・新開地店 ☎078(575)7688

ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186
阪神深江駅北側信号西

オウビ

葺合区琴緒町4丁目7 ☎078(242)3667
国鉄三宮駅北側神戸理髪専門学校斜め前(田上ビル1階)

スメラ

湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234
鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

加茂トアロード店

生田区三宮町3-2 ☎078(392)0234
国鉄元町駅南側東へ100m

スポーツワールド33

生田区三宮町2丁目1 ☎078(332)7332

マヤスポーツハウス

灘区森後町1丁目4-6 ☎078(841)8811
国鉄六甲道駅北 兵庫信用金庫六甲支店山側

1980 2月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市葺合区八幡通2-5 磯上公園
〒651 ☎(078)232-0753
発行人および編集人 加藤 正信
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部30円



Pepsi-Cola and Pepsi are registered trademarks of PepsiCo, Inc. Another Quality Product of PepsiCo, Inc.

神戸のサッカー

サッカー王国 兵庫の再建策を語る

……現状で神戸・兵庫のサッカーは強くなるか……

全国高等学校サッカー選手権大会に雄飛兵庫を代表して出場した東灘高校は、1回戦で秋田商業高校と対戦したが0-1で敗退した。前回は、御影工業高校がよいところまでいったが、あと一息というところで息切れした。関西社会人リーグの兵庫教員団、三菱神戸も兵庫代表としてがんばってはいるものの何かバツとしない感じがする、中高校においても、生徒指導、進学といった問題でサッカーに専念できる指導者はいない。

小学校では、一応学校教育からはなれて社会体育という形で、サッカー少年一人一人に傷害保険をかけ指導している。

一方、神戸のサッカーを強くしよう。少年の体力増強を目的に設立された社団法人神戸フットボールクラブでは、幼・小・中・高・成人のメンバーが毎日楽しくサッカーボールを蹴っている。

今日は、公私共多忙な指導者のみなさんに1月20日(日)午後6時に市サッカー協会へ集合してもらい、神戸・兵庫のサッカーを強くするために、現状、問題点、対策等について話し会ってもらいました。

① 遅れてるスピード・テクニック

司会 くやしさが残っているところで、東灘高校の監督である山田先生、全国大会ではどのような印象をうけられましたか。

山田 なんといっても全体をみた場合、スピード、テクニックにそれほど差があるとは思いませんでした。攻守の切り替えのスピード、正確なボールコントロール、帝京なんか素晴らしいチームでした。

岡本 私も全国高校選手権の準決勝、決勝を観戦してきましたが、山田先生の発言どおり、スピード、テクニック、戦術等すべて、兵庫県のチームにないものばかりを駆使し、楽しいサッカーをしています。

兵庫の場合、県代表になるためには、そこ

まで高度なテクニック、スピードがなくても優勝できるので、高校サッカー全体のレベルアップを図る中で、2-3校でもよいから全国に通用するハイレベルのチームをつくり、競い合うといった形をとることが必要でしょう。どんぐりの背比べでは全国に通用しないですね。スピード、テクニックは中学校でも同じ問題点として検討する必要があります。

指導者の「めざすサッカー」つまり全国に通用するサッカーをするためには、指導者と生徒との心のつながりが一本になり、指導者が生徒の特徴を発見し、やらせるサッカーでなければならない。

② 全力でプレーし、ファイトある選手を育てたい

司会 昭和53年度末の中学校全国大会で兵庫選手権チームが初優勝を成し遂げたのですが中学校の立場から前本先生どうですか。

前本 中学校のサッカーは、生徒指導と切り離して考えられません。

生徒指導は大切な仕事ですから、サッカー部には、生徒指導が必要なぐらい元気な子どもたちが多くうれしいやら悲しいやら――。選抜された選手たちは、上手な子どもたちなのでテングになるケースが多く、選抜チームをつくる時、選手全員を前に、①テング気分は捨てよ、②勝つサッカーをやろうとし、選抜選手が一丸となりチーム力が発揮できるよう指導するのですが――。

最近、中・高でも同じですが、「勝つサッカー」をしていません。たとえば、試合中、

相手選手が一生懸命走っているのに、自分ばかり足でしか走っていない、こんなおかしいことはないですよ。試合であれば、どんな相手であれ、練習した全力を発揮しなければならない。

タイトルのかかっている試合でも、こんな遊び半分というか、中途半端な態度をとる。これでは勝てないですよ、又、上手にならないですよ。試合があって練習してきたパターン、力が発揮でき、1つ1つのプレーに自信がつき、実力が備わるわけですよ。

このような選手が選抜に選ばれるわけですから――。

サッカー全般をみていると、試合で全力を出して、へとへとになっても勝つてやろうという選手が少なくなったのではないでしょか。

出席者(敬称略)

一北四郎(市協会理事長)岡本隆英(市技術委員)五島祐治郎(市大学委員)山田仁彦(東灘高校教諭)前本勇二郎(市中学委員)桜井研二(市少年委員)加藤寛(神戸フットボールクラブ職員)

なお、編集は、編集委員(松本・松下)が担当いたしました。

司会 勝つサッカーをするためには――。前本 まず、生徒に間違った考えを植えつけず、勝つサッカーを、つまり練習はコツコツと地道にやり、試合ではその実力が十分発揮できるよう、全力が出しきれないファイトある選手を育てることが第一です。

数年前になりますが、尼崎の大庄北中学校の先生は、鍋、釜を車に持ち込んで生徒指導に当りながら(勝つためのサッカーを模索していかれた。中学生とは何かを生徒自身に発見させよう指導し、立派な指導者でした)。

司会 前本先生から、タイトルのかかっている試合でも、全力疾走している中学生選手がいないという話ですが、高校ではどうですか。

岡本 高校生は一応全力を出している。個人の性格、ポジションにもよりますが、自分の役割をマスターした選手は、指導者の予想した動きをしてくれます。中・高は指導者の熱意によって良くなるものですが、一時尼崎北のように高校生自らがやって好成绩をあげた学校もありますね。

司会 指導者からみてグラウンドが狭いとかいう問題はないのですか。

岡本 どの学校のグラウンドに関しては同じ問題点をもっているのです、指導者と生徒の工夫次第で十分練習はできます。

一北 そうですね、帝京などはグラウンドが狭く、他流試合で強くなっているのですね。又帝京の場合、実力が上のチームと試合をし勉強しているのですね。社会人とか大学のチームを相手に試合をしていますから。

兵庫県の場合、全国高校予選で131校が出場するのですが、その半数が予選に出場すればよい、当然全国大会に出場できないのだからという気持のチームがあり、優勝をねらうチームと格段の差があり試合になったものではない。したがって、3回戦、4回戦でも

気のいった試合がない。優勝候補のチームは、点差が10-0とかいったリードで勝つため、その次の実力接近チームには前回の気分が抜けきれず、簡単に敗退するというケースが多々でてくるのです。

③ サッカー留学は夢の夢？

司会 今回の全国大会では帝京旋風ともいふべき、実力ナンバー・ワンの学校が優勝したのですが、「サッカー留学」という言葉がよく出てきました。神戸の場合、考えられることでしょうか。

岡本 私学の高校受験がむずかしくサッカー選手が市・県外へ流出しています。過去栄光の道を歩んだ報徳などは、今年度選手不足のため棄権しました。阪神間の場合、受験という意味では公立と私学の差はなくなりましたね。

中学校で素晴らしい将来性のある選手と見込んでいても、高校入試のため指導者のいない高校へ進学すれば、せっかく芽生えたサッカーという特技が生かせないことになる。このような生徒は毎年何人かいるので、我々指

導者からみれば残念でなりません。

一北 工業高校の場合、公立普通科と違って全県一学区になっているので、県下の生徒が受験できるのです。したがって、会員普通科よりは、選手を集めやすいですが、生徒指導に力がいらすね。いくらサッカーが上手になっても生徒指導を放任しておりますと、とんでもない方向へ発展し、せっかく先輩たちが築きあげたサッカーはベシヤンコになりますね。通学時間、学力等いろんな問題を生徒は持っていますから、しかし、御影工業の場合、サッカーが強くなったので、普通科へ進学できる選手が毎年4~5人入学し楽しく、サッカーに熱中しています。したがって、ここ2、3年は就職では悩まないのですが、大学進学で悩んでいますね。

討しているのですが、この方式が実施されると第2次は実力の差のないチームばかりなので、興味ある試合が多くなるのではないかと期待しているのです。

⑥ 進学に悩む中学生

司会 中学生の場合、大会運営はどのようになっていますか。

前本 4月は市民大会(市総合体育大会)6月は春の県大会、8月は市、県、近畿大会と三都市大会、9月から10月は秋の県大会予選、1月は関西選抜大会、春休みにかけて全日本選抜大会等の大会があります。

司会 中学の場合、高校進学、生徒指導といった指導者にとって大変むずかしい問題が山積しているわけですが現状でよいのでしょうか。

前本 中学の場合、一寸試合が多いのではと思うぐらいで、高校のようなことはありません。また実力も神戸市内であれば、そんなに差がありません。しかし、進学とサッカーの関係となれば、話にならないですね。我々がサッカーに一生懸命やればやるほど、父母から反発を買いますね。選抜大会でも神戸は3年生は出ません。大阪尼崎あたりは、教委が協定して3年生を出すようにしていると聞きますが、京都、滋賀はださないですね。2年と3年では試合にならないですね。

一北 サッカー、ラグビー、スキー等の限定されたスポーツだけが夏休みがすんでもメイン大会があるということになっているので、3年生が進学のために辞退し部活動が軌道に乗らないといったマイナス面があり、今後検討すべき問題ですね。

司会 今回の東灘高校は3年生1人以外のメンバーは2年生で県大会で優勝したわけですが、2年生チームが3年生チームに勝ったことになりましたね。

山田 東灘が優勝できたのは運に恵まれたのです。御影工、西宮東といった実力あるチームが取りこぼしをしましたからね。しかし東灘は試合毎に調子をあげてきて、波に乗ってしまいましたね。波に乗ったチームはこわいですよ。実力以上のことが出来るようになるのです。

司会 現在、天皇杯、日本リーグ、関西人リーグ、大学リーグ等、各リーグ別の試合が組まれています、日本リーグの前・後座に中学生、小学生のサッカーをもつてくるとかといった方法をとれば、各リーグの観客が増え、本当にサッカーを愛する人達のために以前以上のサッカー熱がよみがえるのではないかとこの声もあるのですが。

一北 各リーグは試合が過密状況ですが、5回の実天皇杯の準々、準決勝の前・後座試合に小・中・高生の試合を組んだことは成功でした。サッカーに興味のある方々が一石二鳥といった形で親子ともども喜んでいました。今後もこのような形をできるだけ多く組みたいと思っています(引続き3月号もよろしく)

④ 少年は学校体育と社会体育が協同步調

司会 今まで、中・高の問題点を述べてもらいましたが、サッカーをやりだすキッカケとなる小学生を指導している校井先生――。

校井 小学校の場合、学校の先生の指導と社会人の指導といった2通りの方式をとり、サッカー人口の底辺拡大を目的にやっているのですが、神戸の選抜チームが静岡の単独チームと試合した場合6~8点もとられますね。だから、中・高生と同じですね。スピードについていけないですね。こまかいプレーは同レベルなのですがサッカー全体を把握してい

ない。又、中学校にサッカー部があれば良いのですがサッカー部がない中学校へ進学すれば、サッカーをやれば伸びるだろうと思う子どもは可哀想ですね。特に小学校の場合、父母の会が結成されて父母の会が生まれてくると子供たちのチーム力はグリーンと伸びますね。西淡、竜野西などは、そのよい例です。一応、少年サッカーは学校体育を離れて、社会体育として活躍していますので教師の指導も、父母の後援会組織もうまくゆき、中学校よりはやり易いですね。

⑤ 高校は過密ダイヤ……競技会の持ち方を再検討

司会 話は変わりますが、4月から翌年の3月まで、高校などは毎月大会があるのではないですか。大会のあり方、やり方などについて伺いますか――

岡本 高校の場合、4月は選抜対抗戦、5月は総合体育大会、7月は市高大会、8月は国体予選、9月は市総合体育大会、10月からは11月は、全国高校選手権大会県予選、1月は新人戦予選、2月は同県大会、3月は同近畿大会、といった形で毎月なんらかの試合が計画されている。だから強いチームは、試合が待っているといった感じですね。ゆっくり練習で指導者の意図するチームをつくる時間がないのですね。

一北 今回の全国高校予選などは11月初旬から開催しましたが、一チームが7日間で5試合も消化しなければならない事態になりました。プロ野球以上ですね。再検討の必要があります。

岡本 ほとんど高校チームは、6月の総体予選を中心に考えているようですね。正月の大会をねらうチームは、3年生を確保してがんばっていますね。

司会 何か試合の組み方について検討されているのではないですか。

一北 全国高校選手権大会の県予選は、一次リーグとして8月の終りごろにやり、11月に2次の試合をするといった形にやろうと検

奮起して努力したい。

第二、三の目標については、ほぼ9割以上達成できた。四日間を通して全員が神戸市代表として恥づかしくない立派な行動だった。ただ、今後のサッカー活動については、中学高校の指導者の方々に「よりよいサッカー環境を」を要請したい。その点の問題については又別の機会に述べたい。(黒田和生)

＜成績＞

●予選Aグループ

12月25日 全神戸 3-0 船橋FC
26日 全神戸 0-4 栃木県選抜
26日 全神戸 0-7 富士宮選抜
27日 全神戸 0-8 清清水FC・A
27日 全神戸 0-2 厚木ゴールデンターズ

(1勝4敗で5位)

28日 全神戸 3-4 焼津選抜
全神戸 5-4 富士選抜

少年サッカー功労者6人を表彰

昭和54年12月30日神戸市の少年サッカーの育成に尽力され大きな功績のあった6名が神戸市少年サッカー育成功労者として天皇杯準決勝戦のハーフタイムに市協会より表彰され観衆から大きな拍手をうけた。

6名はいずれも10年間以上少年達を指導され、現在もサッカー協会の中核として大きな原動力となっている。今後の活躍にさらに期待したい。

1. 中川次男(明治42年5月8日生・日建設計)サッカー一筋の人生で基本を重視する指導法は過去サッカースクール、北須磨少年団から多くの好選手を輩出している。北須磨は現在やや低迷だが名門の復活を期待したい。

2. 加藤正信(明治45年1月30日生・加藤医院)前市協会理事長、現同副会長、兵庫サッカー友の会、神戸少年スクール、神戸FC、スポーツ少年団サッカーリーグの発足などの強力な推進者で、市少年サッカーの父、といえる。現在も神戸FCの事務局長として活躍中。

3. 林 幸男(大正14年2月21日生・林商店)神戸市の少年サッカーは成徳小の校庭から生れた。昭和36年頃のことである。試合中、注意を与えず子供達の思うようにのびのびと自由なサッカーをさせている独特の指導法は成徳から鷹匠中へ引き続けられ多くの好選手を育ててきた。

4. 島山 喬(昭和4年6月4日生・川崎製鉄)勝って泣き負けて泣く、常に子供達と歩む熱血漢。昭和45年より東灘少年団を指導し過去市少年リーグの5回優勝は最多を誇る。技術の追求のみならず団員のマナーのよさは他の少年達の模範となるどころ。

5. 鶴谷之人(昭和13年4月6日生・鶴谷工務店)林幸男氏を支援して早や十年以上だった。まだまだ元気で市社会人リーグ3部の双和OBクラブの一員としてボールを蹴っている。いつも笑顔絶やさない明るさは少年指導に不可欠のもの。成徳の益々の発展に期待したい。

6. 加藤 寛(昭和26年1月29日生・神戸FC)年令は若いが指導歴は豊富、父正信氏の

意志をつぎ神戸FCで少年から中学生、高校生まで幅広く指導活動が続けている。少年サッカースクール一期生として華麗なボールテクニックの持主。



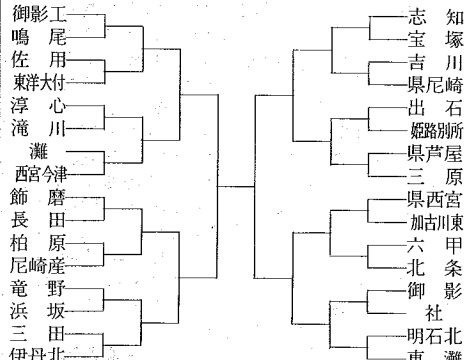
上段右から 島山、加藤正、鶴谷
下段右から 加藤寛、中川、林の各氏

55年度高校総体を占う

県高校新人サッカー大会組み合わせきまる

県高校新人サッカー大会の抽せん会が28日磯上公園の三木記念神戸市立スポーツ会館に於て行われ、次の通り組合せと日程が決まった。シードチームは、御影工、東灘、志知、伊丹北となった。その他有望チームは三原、

55年度県高校新人大会組み合わせ



県西宮、西宮今津、飾磨、六甲、社、柏原などであり上位進出のチャンスがありそうだ。準決勝と決勝は神戸中央球技場で2月23日24日の両日に行われる。

なお、県大会の上位5チームが3月下旬に奈良県で行われる近畿大会に出場する。

御影工高優勝

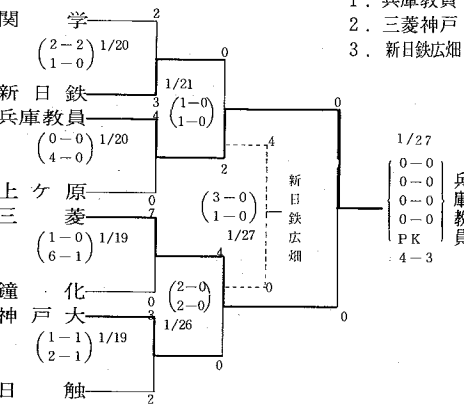
―市高校新人大会終了―

神戸市高校新人大会兼県大会予選は1月12日より8ブロックの予選リーグを行ない、各グループ2位までの16チームによる決勝トーナメントの方式で行なわれた。

決勝戦は予想通り御影工対東灘となり、28日13時半より磯上公園グラウンドで行なわれた。

教員団が戦った。兵庫教員団は押し気味に試合を展開しながら一発がゴールできず、延長戦になった。なおも押しながら1点を奪うことが出来ず、PK戦となった。教員は2人続けてゴールしたが三菱は2人続けてゴールをはずしPK4-0で、女神は、兵庫教員団に輝いた。試合結果は次の通り。

第6回兵庫カップ結果



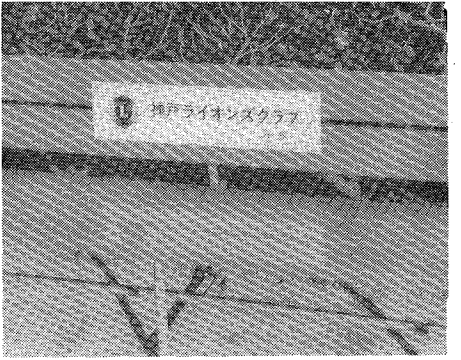
＝神戸ライオンズクラブ＝

長椅子を寄贈

昨年12月30日、神戸中央球技場少年サッカー場へ、神戸ライオンズクラブから長椅子10脚が寄贈された。

神戸市へ申請していた話を、市協会の河本会長が耳にし、神戸ライオンズクラブに相談された結果実現された。当日、角谷神戸ライオンズクラブ会長外数名が列席され、堀神戸中央球技場場長に引渡された。

サッカー協会は、寄贈された10脚の椅子を大切に利用させていただきます。



紳士的な団体行動ができました

―神戸市選抜チーム静岡遠征から―

第7回清水招待少年大会の招待を受けた神戸市選抜チーム(小6年19人引率：黒田和生)は12月25日朝、新神戸駅をたち4日間の大会を終え12月28日全員無事帰った。

毎年暮れに開かれるこの大会は清水市内4チームを含めて全国各地の強豪が24チームが集いそのレベルは夏の全日本少年大会より高いといわれている。市選抜チームの参加は3年目で過去予選グループ3位が最高である。今年もこの大会を目標に少年委員会は技術部を中心に春から選手の育成、選抜、強化に努力して来たが、各地のレベルアップもすさまじく今年も昨年同様予選グループ6チーム中5位に終わった。

参加した強豪チームに比べて走力、キック力、ポジションプレイなどに差があることは

最初から予想されていた。そこをどこまで技術で対抗できるかというのが大会参加の第一のねらいだった。

第二は4日間の冬期の合宿生活において紳士の団体生活の訓練。

第三のねらいは全国から集まった様々なタイプのチーム、選手を見て今後のサッカー選手としての活動(中学→高校)にとってよい励みになってほしいということだった。

第一の目標については五割程の達成率だと思う。一人一人技術はあるが、その発揮法(戦術)を知らないことが最も未熟な点である。原因の一つに平素少年リーグに利用している少年サッカー場のせまさと試合経験の少なさがあげられる。しかし、指導者の努力次第では解決できない問題ではないので今後はもっと